

**記者会見要旨**  
**(2021年9月17日)**

**I 「第42回日本公認会計士協会研究大会 福岡大会 2021」について**

1. この研究大会は、会員の研究成果を全国の会員の前で発表し、会員相互間で質問・検討することにより、知識の吸収及び資質の向上を図ること、外部有識者、実務家等から研究成果を発表してもらうことにより社会との振興を深め、公認会計士の社会的発言の場を提供する、そういった趣旨で開催しています。
2. 研究発表のテーマとしては、監査、会計、コンサル、税務、IT など、公認会計士業務に関連するその年のメインテーマに則した研究発表が行われています。発表者も北部九州会の会員のほか全国の会員、関連団体から研究発表をいただいています。
3. 例年、1,200名近い会員が集まって行うイベントとなっていますが、今回は、オンラインでの開催となっております。現在、1,200名を超える会員の方からの登録がなされています。
4. この研究大会は、1979年に第1回が開催されており、福岡では2006年に開催され、15年ぶりの開催となっております。
5. 今回の研究大会のテーマは、「会計士が作る躍動の未来～持続可能な社会の構築に挑む～」といたしました。
6. 昨今のコロナ禍の状況が現在も続いており、このような状況下で国民経済及び資本市場の健全な発展に寄与することを使命とする公認会計士は、SDGsなども踏まえ、持続可能で安定的な社会の実現に貢献していきたいと考えています。
7. そのような思いから研究テーマを設定し、公認会計士がSDGsにどのように貢献していけるかを提言する研究大会を今回は目指しています。
8. 研究大会に先立って開催されます記念講演では、福岡市出身の彫刻家である外尾悦郎氏にお願いしており、「「永遠の未完」への挑戦」をテーマにスペインバルセロナのサクラダファミリアの芸術工房監督として挑戦し続けられている外尾氏の取り組みや思いについて講演をお願いしております。
9. 研究発表については、メインテーマに則した10の発表が行われます。コロナの影響を鑑み今回の研究大会は、当初予定していた現地とオンラインのハイブリット型ではなく、やむなく完全オンラインで開催することとしました。
10. 本来であれば、この福岡に会員の方にお越しいただき、記念パーティーなどで会員相互の懇親も深めて頂きたいと考えておりましたが、中止とし、完全オンラインといたしました。
11. この研究大会の準備には2年近く掛かっているため残念な部分もありますが、このような環境下であっても、たくさんの会員の方に今の公認会計士が考えていること、社会に対して発信できることをうれしく思っています。

## Ⅱ 北部九州会の最近の動き

12. 今回の北部九州会における研究大会の開催は15年ぶり、前回も同ホテルヒルトン福岡シーホークにて開催されました。本日はほとんどの方が出席できない状況ですが、約40名の実行委員の方々が直前まで様々な準備に当たっていただき、結果としてオンライン開催となりましたが、まもなくの開催にまでこぎつけることができそうで、ひとまず安堵しております。
13. 北部九州会は福岡県・佐賀県・長崎県の会員と準会員により構成されておりますが、会員数は約1,000名と16の地域会の中では中規模に位置しております。
14. 北部九州会の特徴としては、福岡市と北九州市という2つの政令都市を擁している地域の拠点という地理的な要因から、大手の監査法人の拠点のほか、地元の監査法人も数多くあり、比較的監査法人に所属している会員が多いことが挙げられると思います。
15. 特に近年は、監査法人間における異動や転勤、あるいは東名阪などに勤務していた会員が地元の九州に戻るということも多く、会員数としては比較的順調に増加しています。
16. また、福岡市は「グローバル創業・雇用創出特区」への指定に代表されていますとおり、創業の支援や雇用の創出に先進的に取り組んでおり、また、福岡証券取引所や商工会議所もスタートアップ企業の育成や支援に非常に熱心なこともあり、協会のIPO支援に関わる独立開業の公認会計士名簿においても九州地区で数十人の会計士の登録があります。
17. 商工会議所とは中小企業等の支援に共同して取り組んでいるほか、弁護士や税理士などの各種9士業団体と共同して組成した福岡専門職団体連絡協議会が主催する共同相談会にも会員を派遣するなど、地域住民への貢献にも注力しています。
18. その他、会員が自治体の各種委員に就任して専門的な見地から助言等の支援する、地方自治体の財務書類の作成支援や外郭団体等の経営支援、また、一定規模以上の社会福祉法人、医療法人、公益法人、学校法人の監査など、地域の経済発展に北部九州会の公認会計士の方々が様々な形で貢献していらっしゃいます。
19. 今後さらに幅広い分野での活躍が期待されていますので、このような会員の方々に北部九州会としてどのようなサポートが可能なのかということも日々考えています。
20. 北部九州会としては後進の育成にも取り組んでおり、この2年間は開催できていないですが、小学生低学年向けにカレーやケーキの原価計算などを題材とした「ハロー！会計」や、中高生への職業紹介及び大学生向けの公認会計士制度説明会などを開催しています。
21. 現在はコロナ禍によりリアルで開催できないこともありますが、オンライン開催でも多くの学生にご参加いただいております、公認会計士の魅力を伝えることで受験生の

増加にもつながっていると思います。

22. 北部九州会としては今まで実施してきました会員に対する研修等のサービスはもちろん、今後も地域貢献に積極的に関わっていく所存です。
23. 私の任期は来年6月までとなりますが、引き続き今後の地域会の活動にもご注目いただければ幸いです。

### Ⅲ 最近の協会、業界の動向について

24. 最近の協会、業界の主な動向について、＜資料2＞に沿ってお伝えします。
25. 8月20日～22日に令和3年の公認会計士試験論文式試験が実施されました。
26. 受験者数が増加しており、業界にとって喜ばしいことだと思っています。
27. 8月31日にIFRS財団という国際会計基準をつくる審議会を有する団体に対して、日本の関係団体が連名で書簡を送付しました。
28. IFRS財団はサステナビリティ情報の開示に関するグローバルスタンダードを作る審議会を新たに設けることとしており、これに対して日本がどう貢献していくかを記した書簡を送付しました。
29. 9月15日に金融庁「会計監査のあり方に関する懇談会」が開催され、最近の会計監査をめぐる環境変化を踏まえて、有識者が集まり幅広く会計監査のあり方について議論されました。
30. 協会では機関誌である会計・監査ジャーナルの別冊を年に2冊発行することとしており、このたび別冊第3号として「地域とともに歩む公認会計士～地域社会の未来に向けた課題解決にチャレンジ～」を発行しました。地域会に焦点を当てて地域の公認会計士の活躍を紹介しています。地方創生は当協会の最重要課題のひとつですので、年に2冊発行するうちの1冊は地域を取り上げようと考えています。
31. 日本の人口が減少する中で地方をどう維持していくのかという課題に対して、公認会計士も積極的に関わってきています。全国の会員に対し、地域の会員の方の活動を紹介し、できれば首都圏に集中している会員の方が地方にどう貢献できるかということに興味を持って、地方創生に貢献することを期待しています。
32. また、地域の地方自治体、学校や中小企業の方々と連携し、地方創生に貢献していく、そういった活動の一つのハブになればということも考えています。
33. そのほか、「会計はこちらです。」というパンフレットを作成しています。協会では、「ハロー！会計」という小中学校向けに会計の基礎を教える授業を実施しています。
34. 今年度から中学校の社会科で会計情報の活用を授業で扱うこととされており、学校の先生向けに授業支援教材を提供しています。社会のどんな組織でも必要となる会計という重要な知識を、日本の将来を担子供たちに知ってもらう目的で、当協会の社会貢献事業の一環として行っています。

以 上